

楽しく出会い、遊び、学んで定着させる漢字指導

漢字で遊び 漢字を学ぶ

— 漢字入門期の出会いから定着まで —

ノートルダム清心女子大学准教授 赤木 雅宣

1 はじめに

「漢字は結果として覚えることができる」という指導が蔓延していないだろうか。多少手間ひまがかかっても、漢字との出会いから定着までをていねいに扱い、子どもたちに「漢字（の学習）っておもしろい」と感じさせたいものである。子どもは主体性を大切にしながらさまざまな形態で漢字に触れさせ、実際に書かせていけば、プリントやドリル型の練習を繰り返さなくても、きちんと覚えさせることができるはずである。

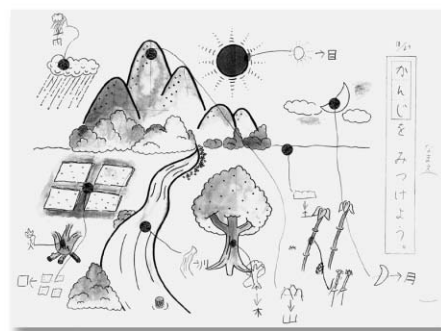
2 実践の趣旨

本実践は、漢字と楽しく出会い、漢字を使って楽しく遊び、書写の時間を活用して字形を確かめ、漢字字典作りを楽しむという一連の流れの中で漢字の定着を図るというものである。活動をさせるならば、楽しい活動を仕組みたい。また、与えられたことをこなすのではなく、できるだけ課題（問題）意識をもって主体的に活動させたい。さらに、意図的に間隔を空けて計画し、必然性のある繰り返し学習を構想したい。

3 指導の実際

（1）「かん字をさがせ！」— 漢字との楽しい出会い（九月）
【概略】二学期に入って、いくつかの漢字に出会い始めたところで、絵の中から漢字を見つける活動を仕組むことで、漢字に興味をもたせ、「漢字（の学習）っておもしろそう」と感じさせることができる。

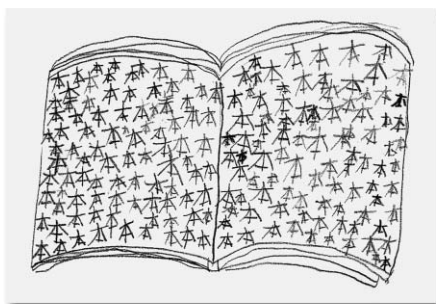
【指導のポイント】ポイントは、ワークシートの絵の中から漢字になりそうなところを探し出すことと、取り出した絵や図と実際の漢字を比べてどこがどう似ているのかを自分なりに説明することにある。一方的に、「こう変化していった」と知らされるのではなく、自分なりに想像することを通して、漢字（象形文字・指示文字）の成り立ちに興味をもたせる。



（2）「かん字みつけ」をつくらう— 漢字で遊ぶ（十一月）

【概略】絵の中にひとつだけ違う漢字を書き込んで「かん字みつけ」を作ったり、友達の手探した「かん字みつけ」から違う漢字を探し出したりして、漢字ゲームを楽しむことがねらいである。

【指導のポイント】言うまでもなく、「みつけ」を作ろうと思ったら、同じ漢字を何度も繰り返し書く必然が生まれる。また、ひとつだけ異なる漢字を見つけようとする中で、元の漢字との違いをはっきりと認識することができる。どちらも子どもたちにとって楽しい活動である。



（3）「この字のかたちは？」— 書写の時間（外形指導）（二月）

【概略】一学期に指導した平仮名の外形指導を漢字へシフトさせる。平仮名の外形指導時の「正方形」「縦長四角」「横長四角」の印象が残っていると思われるので、それに「三角形」を加え、既習の漢字の外形がどの形なのかを考えていく。

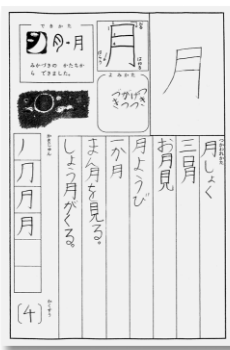
【指導のポイント】子どもたちは、色分けをしながら△や□などで漢字を囲む活動をする中で、漢字のさまざまな形に気づくことができる。また、書き上がったときの形に気をつけながら書くことで、正しく整った文字を書くことができるということ学習することができる。

（光村図書「しよしゃーねん」P6・P17参照）

（4）「ふえるかん字じてんをつくらう」— まとめ（三月）

【概略】自分で漢字のまとめシートを作成していき、「ふえるかん字じてん」に仕上げるという学習である。まとめシートには、音読み・訓読み、筆順、画数、その漢字の用法（熟語・単文）などを書き込んでいく。

【指導のポイント】一枚のシートを書き上げるのに平均して十〜十五分程度かかる。それでも、時間をかけてこつこつと八十枚のシートを作り上げ、音訓順の目次を作り、表紙をつけて完成させると、どの子どもの表情も誇らしげで満足感にあふれている。本当の意味の定着というのは、こういうことではないかと考える。



4 考察

「楽しく出会い、漢字を使って遊び、字形を修正し、まとめる」という大きな流れの中で定着を図ることは、教師がその気になりさえすれば、それほど困難なことではない。すべての漢字においてすべてのステップを通るのではなく、軽重をつけられよい。時数を懸念する向きもあるが、集中して真剣に取り組む子どもたちの姿から、大きな意義のある時間であることがわかる。出会いのときにはていねいに取り組むが、あとは覚えたかどうかの確認（プリントや小テスト）中心になりがちが指導と比べると、出会いからまとめまでを長いスパンで構想し、一人ひとりの定着までの過程をていねいに見ていく指導の意義がいつそう鮮明になってこよう。